

平成29年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 大衡村ふるさと美術館（宮城県大衡村）		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 館長 庄子 明宏 TEL 022-341-8517 Email kyouiku@village.ohira.miyagi.jp	
代表者氏名 館長 庄子 明宏		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】	
（他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】	
部門名 (2) 広報部門 ①行政広報部門	事例名 「何でえーマンホール展」開催（大衡村ふるさと美術館）		
事例の概要 「何でえーマンホール展」は、デザインマンホールを『 <b>足の元のポップアート</b> 』として捉え、2016年3月18日～4月10日に当美術館で開催した。直径60cmという限られたスペースの蓋に各自治体がどんな想いを込めて表現しているか、来館者が <b>自由に発想や思考できる展示スタイル</b> とした。		 展示風景	
○展示内容 展示の5年前から撮影を継続したデザイン蓋のうち宮城県内のものに絞り展示した。現35自治体（旧71自治体）の汚水蓋・公共柵、県流域下水道、農集排、漁集排デザイン蓋を含めて全156枚の <b>写真をA4サイズのパネルとして壁面に展示</b> した。実物マンホールは長島鋳物様と東北地方の各自治体様の協力のもと、14枚の蓋を実際の <b>道路上に設置してある視点で眺められるよう</b> に床面に配置した。		 ご当地 宮城県 大衡村 マンホールコースター	
○その他の企画  拓本ワークショップの様子		企画展にあわせて大衡村マンホールコースターを限定300枚製作し、販売した。現在は完売しているが、在庫の問い合わせが今でもある。 会期中に2回の <b>拓本ワークショップ</b> を行った。乾拓技法で簡単に画仙紙に蓋のデザインが浮き上がり、体験者は楽しんでいった様子であった。中には、乾拓したものを後日、掛け軸にしたという来館者もいた。また、	
展示した乾拓扇を揚げる体験も行った。 展示パネルと県内マンホールの解説小冊子を見ながら解ける <b>マンホールクイズ</b> を行った。難易度の高いクイズであったが、家族やグループ単位で手分けして時間を掛けて熱心に取り組む姿がたくさん見られた。		 乾拓扇揚げ風景	
エントリー事例の特徴			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者の反響：県内にこんなに様々なデザイン蓋があることに驚いていた。「これから下を向いて歩きます！」という前向きな声も聞く事ができ、デザイン蓋の存在普及に貢献できた。その場で初めて会った来館者同士で交流しているという通常の美術館では見られない光景もあり、この企画展における一つの効果と考えられる。</li> <li>・関東圏のマンホール女子や県内のマンホール女子の来館もあり、マンホール人気を改めて痛感した。</li> <li>・年度をまたいで企画展は客足が遠く時期であるが、例年より<b>多数の来館者</b>で賑わった。</li> <li>・会期中に新聞社、ラジオ局、TV局の取材を受けた。会期後もTV局等の取材を数社受けた事は、当美術館が県内において<b>デザインマンホールの発信</b>の役割を担ったと考えられる。</li> <li>・会期後、展示写真は仙塩浄化センターの所長様のご厚意により、浄化センターで展示して頂いている。</li> <li>・この企画展を受け、役場担当部署にて<b>マンホールカード申請</b>に向けて準備中という運びとなった。</li> </ul>			
付属資料の提出	(あり) ・ なし (どちらかに○)		